

# 進駐軍専用物語る台座



## 日本初のスキーリフト

登山口から20分。9番観音の先の広場に、数個のコンクリートの台座がある。1946年、スキー場建設に伴い、米進駐軍が造らせた日本初のスキーリフトの跡だ。

工事監督は、道職員だった堂垣内尚弘・元知事（04年死去）だ。「日本土木学会誌」などによると46年8月、進駐軍は藻岩山の北東斜面にスキー場建設を計

画。一帯の広葉樹林は国の天然記念物のため道は反対したが、伐採は最小限との条件で着手し、12月24日に完工式を迎えた。

計画図によると、ゲレンデは2コースで計2349坪、リフトは2基。台座が残る場所は第1リフト上部で、第2への中継地。2人乗りゴンドラは、背中合わせに座る形だった。堂垣内氏と親交があった札幌市の土木コンサルタント会社顧問、真田英夫さん（72）は「物資不足で鉄材がなく、支柱

は木だった。堂垣内先生から中山峠から運んだと聞いた。私は小学校の遠足で、リフトの伐採跡を登った」と話した。

スキー場は進駐軍撤退後の58年に閉鎖され樹木の自然回復を図った。しかし、台座からふもと方向を見ると今でも樹木がそこだけ少ない。藻岩山に詳しい藻岩レールヒ会の原田廣記会長（75）は「子供のころ稲妻型のゲレンデが見えた。日本人立ち入り禁止で入り口に番兵がいた」と振り返った。